

2025. 6. 1

歴史民俗資料館だより No.159

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

戦時中のくらし展

会 期 6月5日(木)～8月17日(日)
展示品 貨幣・紙幣・軍事郵便葉書・手製の教科書・大東亜戦争世界要図・旭日旗寄せ書き・防空頭巾・もんぺなど 約 270 点

昭和 12 (1937) 年の日中戦争勃発以降、第 2 次世界大戦へと向かい、日本は、永い戦時体制へと突入していきました。

そして長崎は、昭和 20 (1945) 年 8 月 9 日に原子爆弾が投下され、約 24 万人の市民の半数以上が死傷するという悲惨な被害を受けました。

その当時、人々は様々な統制を強いられ、「ほしがりません勝つまでは」と質素、倹約のくらしをしなければなりません。日常生活に必要な物も手に入りやすく、代用品や代用食がさかんにつくられました。

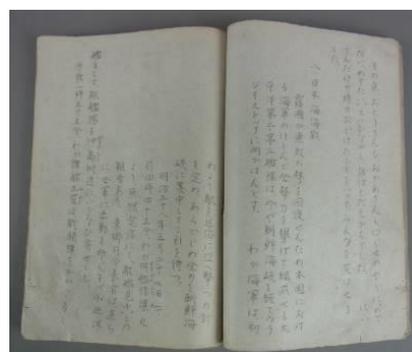
現在の豊かな生活と対比し、平和の尊さを考える機会として、このたび当館では「戦時中のくらし展」を開催いたします。

なお、今回の展示に際しまして、貴重な資料をご提供いただきました脇山良規様をはじめ、関係各位に深く御礼申し上げます。



紙芝居「オコメ」 昭和 16 年

少女を通して、勤労の尊さ、お米のありがたさを知らせようとしています。



手製の教科書

昭和 20 (1945) 年に現物がなく、女学校の学生 (13 歳から 14 歳) が教師となり、小学 6 年生の教科書の挿絵を除き、1 冊 163 頁全てを筆写したものです。



太平洋戦争が始まる昭和一六(一九四一年)一二月まで、月刊の娯楽雑誌として愛読されました。

演芸写真新報



防空頭巾ともんぺ

戦時中、空襲から頭部を保護するための防空頭巾と動きやすいもんぺは欠かせないものとなりました。



軍服(外套)

昭和19(1944)年頃 脇山良規氏寄贈



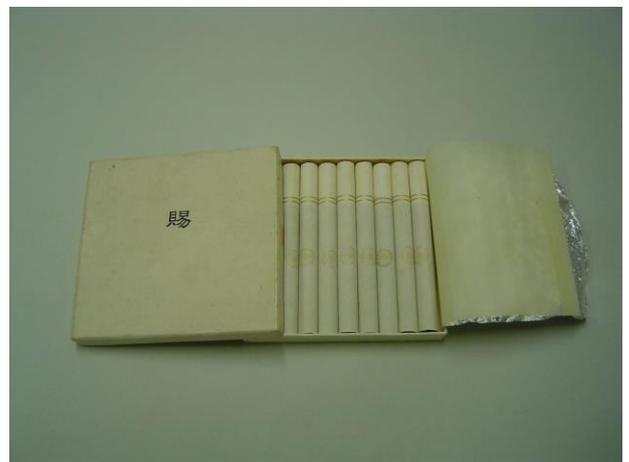
産着

産着には、昭和15年に結ばれた日独伊三国同盟や戦争にちなんだ図柄が描かれています。



エマル消火弾・陶製防砂袋

昭和19年8月11日に、長崎は米軍のB29爆撃機で初めて空襲を受けました。そして、これらの消火器具は各家庭に常備されました。



恩賜の煙草

戦場で兵士が天皇陛下からいただきました。「賜」の文字の箱の中に日本専売公社製で菊の御紋の付いた煙草10本が収められています。



千人針

出征する兵士の武運と無事を祈願して、1枚の晒し布に千人の女性に赤糸で1針ずつ縫ってもらいました。



半鐘

昭和16(一九四一)年に政府は、兵器生産のために、金属回収令を出して供出させました。この半鐘もそれに伴い、供出されたものです。